

はじめに 11

凡例 16

序論

アルフレッド・シュッツと宗教現象学——曖昧な領域の探究

ミハエル・シュタウディグル 19

第一節 アルフレッド・シュッツの現象学 20

第二節 本書に収められた各論文について 27

第一論文

〈宗教的な限定された意味領域〉における〈働きかけの世界の実利的傾向〉への抵抗

マイケル・バーバー 41

序論——形相と至高の意味領域 43

形相 44

至高の意味領域 47

働きかけの世界の実利的性格 52

第一部 実利的傾向に対する、〈理論的・観照的な限定された意味領域〉と〈文学的な限定された意味領域〉における抵抗 66

第二部 宗教的な意味領域 75

結論 89

第二論文

生活世界、下位世界、死後の世界——多元的現実の多様な「現実性」

ルーツ・アヤス 97

序論 99

第一節 多元的現実の中心としての日常生活世界の現実 101

第二節 限定された意味領域の現実性 106

第三節 生活世界、死後の世界、究極の意味領域 128

結論 144

第三論文

刑務所におけるヨーガ——超越、靈性、自己改善

マー・グリエラ

序論 155

第一部 事例の構成——カタロニア地方の刑務所におけるヨーガとホリスティックな靈性 158

第二部 理論的枠組み——ヨーガ、ホリスティックな靈性、超越の具体的体験 165

第三部 主な調査結果 170

結論 195

第四論文

シュッツ流の「祈り」の分析——言語哲学の観点とともに

ケイジ・ホシカワ／ミハエル・シュタウデイグル

序論——「祈り」を分析するための現象学と分析哲学との融合 213

第一節 現代における宗教と、宗教の中核／本質としての祈り 215

第二節 祈りとシュッツ現象学 221

第三節 祈りと言語哲学 234

第四節 結論的見解 250

第五論文

宗教と暴力——宗教的コミュニケーションの逆説

イリヤ・スルバール

はじめに 269

第一節 「聖なるもの」とのコミュニケーションとしての暴力 269

第二節 宗教的な包含と排除のダイナミックス 281

第三節 宗教と暴力の相反関係 288

おわりに——宗教と政治宗教 297

「あとがき」に代えて——シュッツ流の「宗教現象学」の可能性 309

はじめに 309

第一節 宗教現象学とは何か 311

第二節 シュッツと宗教現象学 316

第三節 J・タケツトの「宗教現象学」批判の紹介とその吟味
おわりに——シュッツ流の「宗教現象学」の可能性

339

322

著者の所属、論文名、初出

348